

可能性に満ちているインバウンド

|訪日外国人向け旅行事業者に聞きました

- 1 三条市でインバウンドの旅行社を立ち上げようとしたきっかけは何ですか？
- 2 どういったお客様が多いですか？
- 3 提供されているツアーや体験プログラムの一例



クラフト
株式会社KRaft
(西四日町一丁目16-22)
よこやま ひろひさ
代表 横山 裕久さん

① ものづくりのまち三条で、職人と旅人が出会い、つながり、地域に新しい価値が生まれる機会を作りたいと思いました。観光は目的ではなく手段。三条の技と誇りを世界へ届けるため活動しています。

② ドイツ、フランス、アメリカなど英語圏を中心に、半年で70人超を受け入れました。ものづくりへの関心が高く、歴史や文化を深く知りたい人が多く、購買意欲も高い印象です。

③ 午前→フライパン作りや溶接などのものづくり体験
屋 →市内料理店で日本料理を堪能
午後→自転車で周遊しながら工場や町の風景を楽しむ



ものづくり体験の様子



市内をサイクリング



あるて
(西四日町一丁目2-30-3)
あい ば ひろし
代表 相場 浩さん

① もともと「燕三条まちあるき」の企画やガイドをしていました。参加者の年齢や出身地などに応じたまちあるきの企画を、外国人向けにアレンジし直したところ、インバウンドに合う内容になりました。

② 一般の外国人旅行客の受け入れ実績はまだないのですが、海外の旅行関係事業者を対象に企画したモニターツアーに、香港からのお客様が参加されました。感触では、地域の伝統や文化、産業をストーリーとして伝えると喜ばれるようです。

③ 縄文時代からの歴史を振り返りながら市内のいろいろな場所を訪問し、最後はオリジナル包丁を作るストーリーツアー



包丁研ぎ



サンクチュアリ株式会社
(帯織2342-2)
まつおか のぶひこ
代表 松岡 暢彦さん(左)
旅行事業部長 築野さん(右)

① 三条市は、自然環境だけでなく、歴史的に金属加工業の産業基盤があり、重層的に観光を楽しめる地域です。北陸上信越のサイクリング旅行の基点としても適していると考えています。

② 3月、4月でシンガポールから3組合計70人を受け入れました。この秋は、シンガポール、マレーシアから5組合計80人を受け入れます。三条市は交通の便もよく、サイクリング旅行の基点として立地的に恵まれていることや、参加者の評価が高いので春秋定例のツアーコースにしました。

③ 午前→弥彦神社までサイクリング
屋 →ファミリーレストランで昼食
午後→帯織周辺をサイクリング。工場見学



サイクリングツアーの様子

特集

インバウンド誘致で 地域を元気に

TRIP

営業戦略室
☎34-5605

新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、日本を訪れる外国人観光客が再び増加しています。観光庁の発表では、令和7年上半期の訪日外国人は、感染症流行前の水準を上回り、過去最高を記録しました。訪日外国人1人が1回の旅行で消費する額は、日本人1人が1年間に商品やサービスに消費する額の約6分の1というデータがあります。このことは、外国人旅行者6人の誘客が、定住人口1人分の国内消費に相当することを意味します。外国人が日本へ旅行に来ることを指すインバウンドの需要が高まることで、国内消費の減少を補ったり、地域経済の活性化につながったりすることが期待されています。本特集では、訪日外国人に向けた三条市の観光の取り組みについてお伝えします。

観光がもたらす経済効果

日本人1人当たり
年間消費額**135万円**
(定住人口が1人減ると消費額135万円減)

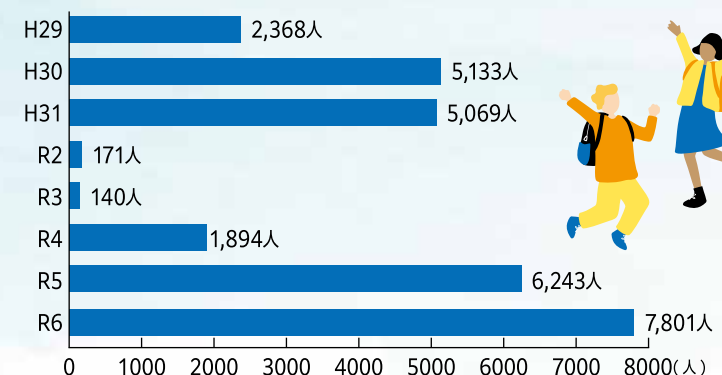
訪日外国人旅行者
21.3万円/人 × **約6人分**

出典：(2023年)観光庁「旅行・観光消費動向調査」、
観光庁「訪日外国人消費動向調査」、JNTO(日本政府観光局)「訪日外客数」、
総務省「家計調査」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」
を基に作成

外国人旅行者は、旅行先で単に製品を購入するだけでなく、背景にある文化や体験を求める傾向にあり、新たな観光の形として期待されています。

三条市には、ものづくりの体験や技術に触れることができる三条鍛冶道場を始め、作業現場を公開するオープンファクトリーなどが充実し、訪れた外国人旅行客が、職人の技に感嘆の声を上げています。

三条市のインバウンドの状況(市内施設観光客受入数)



海外の人を魅了する燕三条製品

新潟との直行便があるので、台湾人の旅行者が多いです。東京駅外国人案内所に置かれていたパンフレットを見て来られた人もいました。当センターの物産館は、燕三条製品を多く扱っているため、メイド・イン・ジャパンを求める訪日外国人は魅力的に感じるようです。キッチン用品や包丁は人気が高く、特に包丁は手掛ける職人によってデザインが多種多様なので、買われる人も熱心に選んでいる印象です。

今後、円相場の急激な変化がなければ、毎年10~20%前後で来館者の増加が予想される中で、海外からのお客様にもいっそう喜んでもらえるよう努めています。



燕三条地場産業振興センター
営業推進部長 石本 貴昭さん